

国語 第1学年 ともだちとはなして、おはなしをかこう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校の国語の授業づくりを手伝う役です。この後に続く「どんな おはなしができるかな（第1学年）」の学習指導案を、私の学級に合わせて直してください。

先に、次の五つを一つずつ質問し、私の答えを待ってから次の質問に進んでください。まとめて聞かないでください。

一、学級の人数と、ペアの組み方。

二、既習のこと。句読点とかぎ（「 」）をどこまで書けるか、友達と話す学習をどこまでしてきたか。

三、この学級の子どもの実態。話すのが苦手な子、書くのが苦手な子、ひらがな・かたかなの読み書きの様子、などの実態。

四、この単元に使える時間数と、研究授業にする時間（何時間目か）。

五、使える道具。一人一台の端末があるか、録音できるか、大型画面があるか、紙だけか。

五つの答えがそろったら、学習指導案を次の決まりで直してください。

学習指導要領の文言、評価規準の文末（「～している」「～しようとしている」）は変えない。

教科書の絵や文は引用しない。絵を使う所は「先生が教科書から用意する」と書く。

時間数は私が答えた数に合わせ、削ったり足したりした時間がどれかを一覧にする。

本時の展開は、人数と道具に合わせて、活動の形（一人・ペア・グループ・全体）と使う物を書き直す。

つまりきへの手当ては、私が答えた実態に合わせて具体的に書き直す。

子どもに見せる文（めあて・まとめ・型）は、1年生が読める字とことばで書く。

直した所の一覧を最後に付け、どの答えを根拠に直したかを一行ずつ書く。

文章は先生がそのまま使える言い方にし、比喻や決まり文句を使わない。

出力は、学習指導案と同じ見出しの順で全文を出してください。

直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

———ここから直す対象の学習指導案———

第1学年 国語科学習指導案

1 単元名「ともだちとはなして、おはなしをかこう」 教材名「どんな おはなしができるかな」

2 単元の目標

(1) 句読点の打ち方、かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使う。文の中における主語と述語との関係に気付く。〔知識及び技能〕(1)ウ・カ)

(2) 互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐ（話すこと・聞くこと A(1)オ）。文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付ける（書くこと B(1)オ）。

(3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（第1学年及び第2学年の目標(3)）

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①句読点の打ち方、かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（(1)ウ）

〔知識・技能〕②文の中における主語と述語との関係に気付いている。（(1)カ）

〔思考・判断・表現〕①「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつないでいる。（A(1)オ）

〔思考・判断・表現〕②「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。（B(1)オ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①進んで、友達の話を受けて話し、学習の見通しをもって、友達と話したことを基にお話を書こうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

本単元は、友達と登場人物の動物になったつもりで話し、その話を基に会話の入ったお話を書いて読み合う、話すこと・聞くことと書くことを組み合わせた単元である。二人で一つのお話を考える時、相手の言ったことを受けないと話が先へ進まないの、学習指導要領第1学年及び第2学年のA(1)オの、相手の発言を受けて話す力を、子どもが必要として使う場になる。話したことをお話に書く時には、登場人物が話したことをかぎ

(「 」)で書くので、〔知識及び技能〕(1)ウの句読点やかぎの使い方を、実際の文章の中で使える。書いたお話を読み合う活動は、B(1)オ「文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること」に当たる。光村図書の教科書では、第1学年の前半に、好きなことを友達に話して文に書いたり、あったことを文章に書いたりする単元がある。第2学年では、絵を基に想像を広げ、事柄の順序に沿って構成を考えてお話を書く学習へ進む。

(2) 児童について(学級の実態を書く)

(3) 指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。まず、話がつながる姿を言葉にして示す。相手の話を受けずに自分の話を続ける見本と、相手の話を受けてつなぐ見本を先生が見せ、違いを子どもに言わせてから話させる

(A(1)オ)。次に、話したことは絵と短い言葉でメモに残させ、書く時間の材料にする。話すことと書くことの間に時間が空いても、メモを見れば話したことを思い出せるようにする。そして、書く時は、動物が話したことをかぎで書くことと、「だれが」「どうした」がそろっているかを、声に出して読み返して確かめさせる

((1)ウ・カ)。書いたお話は、会話の文がかぎで書かれ、相手の話を受けた会話が続いている物を「おおむね満足できる」状況、会話の間に動物のしたこと文が入り、場面の様子が分かる物を「十分満足できる」状況を目安にする。

5 指導と評価の計画(全6時間)

第1次 第1時：○教科書の絵を見て、どんな動物がいて、何をしたいそうかを話し合う。○学習課題「ともだちとはなして、どうぶつのおはなしをつくろう」と、進め方を確かめる。評価：態①(発言)

第2次 第2時：○お話に出す動物を選び、どこで、何をしてお話にするかをペアで決める。○先生の見本を見て、話がつながる言い方を確かめる。

第2次 第3時(本時)：○ペアで役を決め、動物になったつもりで話す。相手の言ったことを受けて話を続ける。○話したことを絵と短い言葉でメモする。評価：思①(行動観察・メモ)

第3次 第4時：○メモを見て、話したことを基にお話を書く。動物が話したことはかぎ(「 」)を使って書く。評価：知①(ノート)

第3次 第5時：○書いたお話を声に出して読み返し、句読点やかぎ、「だれが」「どうした」を確かめて書き直す。評価：知②(ノート) 態①(見直し)

第3次 第6時：○書いたお話を読み合い、内容や言葉でいいなと思ったところを伝え合う。○自分のお話のよいところを見つけて書く。学習を振り返る。評価：思②(付箋・振り返り) 態①(振り返り)

6 本時の指導(3/6)

(1) 本時の目標

動物になったつもりで友達と話し、相手の言ったことに興味をもって、それを受けて返し、話を続けることができる。(A(1)オ)

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：1 前時に決めた動物と、お話の場所を確かめる。

2 先生の見本を二つ見て、比べる。

○「二つの話で、つながっていたのはどちらでしょう。どこでつながっていましたか」

【めあて】ともだちのはなしをうけて、はなしをつなごう。

予想される児童の反応：・「それで、どうしたの」と聞いていた。

・相手が言ったことを、もう一度言ってから話していた。

・自分のことばかり言うと、お話にならない。

指導上の留意点：・見本は、相手の話を受けずに自分の話を続ける物と、相手の話を受けてつなぐ物の二つ。

先生と、前もって頼んでおいた子どもで見せる。

・つなぐ時の言い方（「それで」「そうなんだ。それなら」「どうして」）を短冊にして黒板に貼る。

【展開】

学習活動：3 ペアで役を決め、動物になったつもりで話す。

○「相手の言ったことを受けて、次の話をしましょう」

4 話したことを、絵と短い言葉でメモする。

5 別のペアと聞き合い、話がつながっていたところを伝える。

○「友達のペアの話で、つながっていたところはどこでしたか」

6 もう一度ペアで話し、つなぎ方を工夫する。

予想される児童の反応：・「おなかがすいたね」「それなら、いっしょに木の実をさがそう」

・「どこへ行くの」「森の向こうへ行くんだよ」

・相手の話を聞かずに、自分の思いついたことを言う。

・何を言えばいいか分からず、だまってしまう。

指導上の留意点：・話す前に、相手の顔を見て、最後まで聞くことを確かめる。

・言葉が出ない子には、つなぐ言い方の短冊を指して選ばせる。先生が相手役になって、やりとりを一回だけ一緒にする。

・相手の話を受けずに話す子には、「今、相手は何と言ったかな」と聞き、相手の言葉を一度くり返してから話させる。

・メモは字にこだわらず、絵と短い言葉でよいことにする。

・ペアの組み方は学級の実態に合わせ、話すのが苦手な子は聞き返すのが得意な子と組ませる。

・動物の絵は教科書の絵を使うので、先生が教科書から用意する。

【まとめ】

学習活動：7 話がつながった時に使った言い方を出し合う。

【まとめ】ともだちのはなしをよくきいて、「それで」「どうして」とうけると、はなしがつながる。

8 振り返りを話したり書いたりする。

指導上の留意点：・まとめは子どもの言葉で作り、上の文は例として扱う。

・振り返りは「つなぐときにつかったことば」と「ともだちのはなしでおもしろかったところ」の二つ。書くのが難しい子は先生に話して伝える形でもよい。

・次時は、話したことを基にお話を書くことを伝える。メモは次時まで先生が預かる。

評価：思①（行動観察・メモ）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ書く。右端に日付・題名・めあて（ひらがな、分かち書き）。その左に二つの見本の会話を吹き出して並べ、つながっている所を線で結ぶ。中央につなぐ時の言い方の短冊。その左に、子どもが見付けたつなぎ方と、ペアの話の例を矢印でつないで書く。左端にまとめ。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

